

琉球大学学術リポジトリ

グローバル・プログラム津梁
令和元年度プロジェクト報告：
多様性・協働性を核とした国際通用性のある体系的
な学士教育の確立に向けて

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2021-05-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 當間, 千夏 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48510

グローバル・プログラム津梁 令和元年度プロジェクト報告
～多様性・協働性を核とした国際通用性のある体系的な学士教育の確立に向けて～
當間千夏（グローバル教育支援機構開発室）

1. プログラム概要とこれまでの流れ

グローバル・プログラム津梁は本学におけるグローバル人材育成を加速することを目的に平成 29 年度より開始された。本プロジェクトでは、学内における語学教育、国際交流、留学取組の集中・可視化による国際教育の体系的な提供、「多様性を受容し協働する」グローバル人材を育成する学際・国際協働教育プログラムの構築に向けた取組を実施している。

初年度の平成 29 年度は、グローバル・モジュールへの共通教育外国語科目達成目標の配置やグローバル・コモンズ津梁の整備・利用開始、国際協働ワークショップの試行実施などプロジェクトの基盤整備を行った。平成 30 年度には学際・国際協働ワークショップの実施、ワーキングホリデーセミナーの実施、学生サポーター「グローバル・コモンズコンシェルジュ(GCC)」の設置、副専攻開設に向けた体制整備など、グローバル人材育成のための国際協働教育プログラム構築に向けた取り組みを開始した。

2. 令和元年度実施取組について

2-1. 国際教育に関する取組の集中、可視化による教育の体系的な提供

グローバル・コモンズ津梁における国際教育関連事業の実施

前年度に引き続きグローバル・コモンズ津梁における国際教育関連事業の実施推進を行った。語学講義、海外文化研修発表会、語学サークル等による延べ 60 件の活用があった。

グローバル・コモンズ コンシェルジュ (GCC)

前年度より試行運用を開始した本学学生の語学学習・留学・国際交流に関する学生サポーター「グローバル・コモンズ コンシェルジュ」(以下 GCC) の継続運営及び活動拡大を行った。今年度は、本学の日本人学生に加えパラオからの交換留学生やセネガル出身の大学院生が参加し、留学生を対象とした日本語会話グループを実施するなど、活動の幅にも多様性が出た。

また、活動場所の整備を実施した。グローバル・コモンズ津梁の一部スペースに人工芝を設置して GCC 専用スペースを作り、留学に関する資料を閲覧したり学生が気軽に集まることのできる場所づくりを行った。その結果、利用学生から「(図書館の) 芝生の場所」という言葉を多く聞くことが出来るようになったことから、人工芝によるイメージの定着はある程度の効果があったと考えられる。

令和元年度の実施項目はカウンセリング、英会話グループ・日本語会話グループ運営、ワークショップ開催で、全取組を合わせて延べ 536 人の参加があった。活動の詳細は本誌別稿

「グローバル・コモンズ コンシェルジュ活動報告」にて報告する。

グローバル・モジュール（企業調査）

グローバル・モジュールでは、①入学時の GTEC の点数、②各講義における到達目標レベル、③企業の求める英語力を 1 つの指標に組み込み、目指すキャリアに合わせた体系的な語学学習を可能とするキャリア別プログラムの提供を目的としている。そのうち③について県内各企業の求める英語力を調査するため、企業調査を実施した。

まず 10 月に沖縄経済同友会の協力の下、県内企業への調査を開始し 6 社からの回答を得た。さらに 3 月実施の本学就職説明会にて追加調査を実施する予定だったが、コロナウィルスの影響で説明会が中止となった。十分なサンプル数を確保するため、本調査は引き続き令和 2 年度に実施予定。

グローバル事業集約パンフレットの作成

本学では、各学部や全学にて海外留学や語学学習、国際交流に関する多様なグローバル事業が実施されているが、国際教育課の留学情報誌（COMPASS）を除き、それらの情報を集約した形で学生に提供する媒体がなかった。そこで、留学に加えて語学教育や国際交流取組も含め学内で実施されている各種取組を集約したパンフレットを作成した。本パンフレットは令和 2 年の入学生より本学学生に配布を開始した。



オープンキャンパス留学フェアの開催

7 月 13 日に附属図書館グローバル・コモンズ津梁とラーニングコモンズにて、国際教育課と共催でオープンキャンパス留学フェアを開催した。

今年度は新たに学生サポーターGCC を中心に、在学学生によるプレゼンテーション、留学相談等を行った。本学の留学制度や奨学金制度の紹介、留学体験談紹介、留学相談ブースの他に、大学だからこそできる体験、高校生が今後に生かすことのできる有意義な体験を提供

するため、語学学習方法の紹介や GCC 実施の英会話グループの体験会、アフリカやイラク、ミクロネシア出身学生による国、文化紹介を実施した。

留学フェアでは来場者に向けたアンケートを実施し、38 件の回答を得た。回答者のうち、71.1%が高校生、18.4%が大学生、5.3%が保護者であった。「どのプログラムを目的に来ましたか？（複数回答可）」という設問では 79.4%が留学体験談と回答しており、フェアの参加者の主な目的は留学経験者の体験談を聞くことであることが分かった。その一方で、「今後どのような内容のイベントがあれば参加したいですか？（複数回答可）」という設問では留学生と交流が出来る取組が 59.4%、留学の奨学金に関する情報が 56.3%と、実用的な知識と国際交流経験への関心が高いことが推測される。

来場人数の集計はできなかったが、今年度はオープンキャンパスが午前午後の入れ替え制となり、高校生が大学を自由に歩く時間がなくフェアの来場者も少なかった。来年度以降はその点も含めて多くの高校生に来場してもらえよう広報時期や方法などを工夫していきたい。



(写真左：留学体験談の様子 右：英会話グループ体験)

留学・ワーキングホリデーセミナーの実施

昨年度に引き続き日本ワーキングホリデー協会より講師を招聘し、留学・ワーキングホリデーセミナーを実施した。本取組では、本学学生がワーキングホリデー制度について学ぶ機会の設置、交換留学との違いを比較すること、本学学生の海外渡航促進を目的としている。本セミナーは、前期後期併せて計 4 回開催し、留学の段階毎に内容、対象者を設定し、基本的に回を追って段階が上がるようシリーズ化して実施した。4 回の実施で述べ 68 名の実施があった。各回の内容は以下の通り。

	開催日程	内容	主な対象
①	4月10日	交換留学とワーホリの比較紹介	新入生
②	4月17日	交換留学・ワーホリの体験談紹介 留学プラン作りワークショップ	新入生
③	6月19日	社会の求めるグローバル人材に関する講演	留学希望者・留学帰国者・その他
④	10月30日	留学プラン作りワークショップ②	留学に興味はあるがどうすればいいかわからない学生
		留学・ワーホリ情報提供セミナー	どういう留学をしたいか明確なイメージを持っている学生



(写真：留学・ワーキングホリデーセミナーの様子)

2-2. 学際・国際協働プログラム構築・実施に関する取組

グローバル津梁プログラム（副専攻）

今年度より留学生との協働授業を必修とするグローバル副専攻（グローバル津梁プログラム）の提供を開始した。本副専攻では「異なる背景を持つ人々と協働する 精神・スキルを持ち、自身の専門を軸に複合的な視点でグローバルな課題にアクセスすることのできる人材」の育成を目的に、2つのグローバルリーダー像を掲げている。専門分野を超えて複合的な問題の課題解決ができる「統合型リーダー」と、全体的な文脈に目配せしつつ、専門的な特定の課題解決のできる「特定課題型リーダー」である。履修学生はどちらかのリーダー像を選択し、自身の履修テーマを設定する。

これらのグローバルリーダーを育成するカリキュラムは、①留学生と共修を行うグローバル実践演習科目、②語学力を身につけるための語学コミュニケーション科目の必修科目、③自身の専門及び履修テーマに合わせた選択科目の履修となっている。加えて大学在学中一回以上の海外渡航を修了要件としている。今年度の登録学生は前後期合わせて23人。

本副専攻の必修科目「グローバル実践演習」は留学生と日本人学生が協働でSDGsや国連で取り上げられているテーマについて取材、発表、ディスカッションを通して異文化協働を学ぶ科目だが、当該科目に関連して近畿大学で開催された「日本英語模擬国連大会（JEMUN）」に本学より2名の日本人学生、1名の留学生を派遣した。本取組は海外大学生、日本大学生、高校生が協働で模擬的に国連における議論やそれに関わるメディア取材・発信等を英語で行うものである。

3. 今後の展望

5年計画である本プロジェクトの3年目となる今年度は、立ち上げた取り組みの継続実施や展開、学際・国際協働プログラムの教育プログラム開始等を実施してきた。来年度以降はこれらのプログラムをどう本学の教育に組み入れていくか、どう今後につなげていくかということを検討しつつ、プロジェクトのアセスメント等に注力していきたい。